

放射線教育

会津若松市立行仁小学校

ホームページ掲載資料

第4学年1組 道徳学習指導案

日 時 平成28年10月31日(月) 第5校時

場 所 4年1組教室

指導者 ○○ ○○

1. 主 題

わたしたちの生活向上プロジェクト

2 主として他の人とのかかわりに関すること (2) 思いやり, 親切・信頼友情

2. ねらい

「思いやり」について、様々な角度から価値を見だし、福島県が置かれている状況を知り、自分たちの生活を向上させていくためにどんなことを考えて行動していけばよいのかを話し合い、実践しようとする態度を養う。

3. 児童の実態について

男子9名、女子22名 計31名のクラスである。震災当時、4・5歳だった児童は、保育所や幼稚園、自宅などで被災し、3名の児童が避難等の転居を経験している。クラスで実施したアンケートによると、地震の前後で生活が変化したと感じている児童は4名で、「地震に備えて生活している」「曾祖母が亡くなり、(家族の)笑顔があまりなくなった」「父親が家でみんなを気遣っている」「母が以前より忙しくなった」というものである。また、原発事故後、県内で困っている人がいることや、困っている問題があることを知っている児童は、16名とクラスの半数である。しかし、実際に事故の際に困ったり、嫌な気持ちになったりした児童はいない。

このような実態なので、将来的に「福島県民」という立場に立たされたとき、相手の立場に立った考えを経験することは、とても大切であると考えます。

4. 指導について

本実践は、小学校4年生の内容で、「相手の身になって人を思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる」授業である。

2011年の東日本大震災で、本県は、地震と津波による甚大な被害を受けただけでなく、福島第一原子力発電所の事故により多数の避難者を抱えることとなった。また、放射性物質が県内各地にも飛散したことから、児童の安全な生活を守るため、放射線に関わる学習を計画的に行い、理解を深めてきたところである。避難を余儀なくされた児童の中には、住み慣れた土地を離れ、大きな不安を抱えているうえに、放射能事故に関する無理解から、心無い言葉をかけられて傷ついたということもあった。

他県の間人から見れば、福島県は1つだが、会津と中通り・浜通りとでは、被害状況が大きく異なり、特に、原発事故に関しての意識には温度差が大きい。原発事故について改めて学び、同じ福島県民として、自分にできる行動を考えることで、自分たちの日常生活につなげさせていきたい。

本主題では、次のような力をつけさせたい

- ・教材から感じたことや考えたことを出し合い、学びたい価値を考え、学級での共通課題に沿って話し合うことで、ひとりひとりの「思いやりの気持ち」を深めることができるようにする。
- ・学級活動や教科の学習をもとに、道徳での学びを生かす場を設定し、身近な問題につなげていくことで、価値について深めたことを実践しようとする。

5. 資料について

この話は、本校職員の子どもが実際に経験した事をもとに作成した。会津地域は、放射性物質の飛散による被害があまり大きくなかったことから、日常生活の規制もなく、通常の生活を送る児童が多かった。そのため、他地区の児童が、避難生活を余儀なくされたり、屋外での活動を制限されたりしたことは、自分達の生活経験と重ならない。ところが、震災後、スポーツ少年団の練習試合で、隣県に遠征した際、「放射能が移る」「放射能が来た」などと、揶揄され、非常に憤りを感じて試合から戻ったとの話であった。

この資料は、「福島県民」として、自分にできる行動を考え、自分たちの日常生活につなげていくために適した内容であると考ええる。

6. 指導計画

活動1：総合的な学習の時間

「福島県環境創造センター」の見学学習で、東日本大震災と福島第1原子力発電所の事故について、ディテールを知る。

活動2：学級活動

除染情報プラザを通して専門家を招き「放射線ってなんだろう」の学習を行う。αちゃん、βちゃんを使い、放射線の特性や遮蔽などについて知る。

活動3：朝のチャレンジタイム・振り返りタイム（15分×5時間，20分×1時間）

原発事故などについて調べ、5年間を振り返る。

活動4：道徳（本時）

思いやりを行動で【2-(2)思いやり、親切】

あのひとことで（自作資料）

活動5：道徳（3学期）

思いやりを行動で【2-(2)思いやり、親切】

ポロといっしょ（東書）

7. 指導過程

学習活動	指導上の留意点 ★…評価の観点
<p>1 これまでの学習から、東日本大震災について分かったことを発表する。</p> <p>① 東日本大震災についてこれまでに調べたことを、振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波で、大きな被害が出た。 ・原発事故が起きた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災関連の資料などを掲示しておくことで、活動を振り返りやすくする。 ○ 経験を思い出すことで、ねらいとする価値への方向づけを図る。
<p>2 「あのひとことで」を読み、役割演技をしながら主人公の気持ちを考える。</p> <p>① 久しぶりにサッカーの練習をしたときの「ぼく」の気持ちはどうだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーができるようになってよかった。 ・みんなと会えて嬉しい。 <p>② 練習試合が決まったことをコーチから聞いた後、「ぼく」は、どんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しみだな。頑張ろう。 ・絶対に勝つぞ。 <p>③「お前たち、福島だろ。放射能がうつるからさわんなよ。」と言われたとき、「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてこんなことを言うんだらう。 ・放射能は、人にうつらないのに。 <p>3 思いやりについて話し合う。</p> <p>① 自分がその場にいたら、どのような行動をとりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じチームの友達なら、慰める。 ・相手チームの子なら、「そんなことを言っではいけない」と注意する。 <p>② 思いやりのある行動とは、どういうことでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 試合までの気持ちをしっかり考えさせることで、「放射能がうつる」と言われた時の、主人公の動揺を想像させられるようにする。 ○ 役割演技をさせ、演じている本人と、見ているまわりへのインタビューを行わせる。演者は「やってみてどんな気持ちになったか」、他の児童は「見ていてどんな気持ちになったか」を発表させる。 ★ 心無い一言を言われた時の、主人公の心情に共感することができたか。 ○ 同じチームと相手チーム、それぞれのチームメートなら、どういう行動をとるかを具体的に考えさせることで、「思いやり」のある言動とはどういうことなのかを考えさせる。 ○ 原発事故や放射能についての知識がないために、悪気なく言った人に対して、自分だったらどのように対処するかを、グループで話し合わせる。
<p>4 友達の発表と、自分の意見から、考えたことをまとめ、主人公に手紙を書く。</p> <p>① 今日話し合った事をもとに、「ぼく」に手紙を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公にあてた手紙を書かせることで、学習したことを自分の日常に生かそうとする気持ちを持たせる。

【資料】(自作資料)

あのひとことで

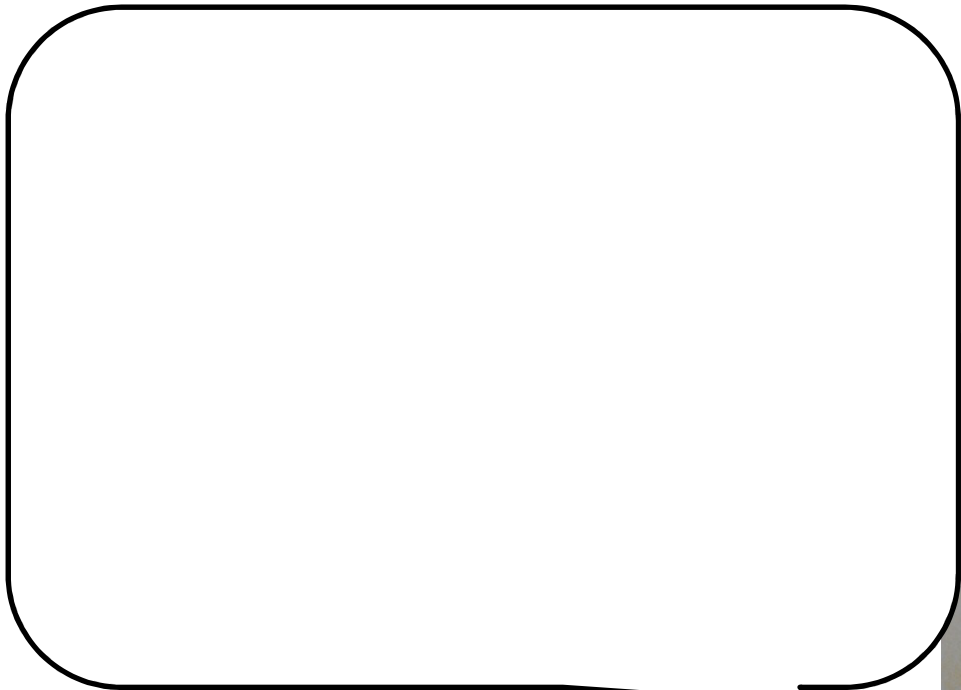
地震の後、外での運動を禁止されていたぼくたちは、しばらく休みだったサッカーの練習が始まると聞いて、とびあがってよろこんだ。久しぶりに会う友達とのあいさつもそこそこに、ボールをけり始めた。

久しぶりの校庭で、ぼくたちはむ中になってボールをけった。「やっぱり、外で運動できるのは楽しいし、気持ちいい。」そう思いながら練習をしているうちに、コーチから集合の声がかかった。コーチは、3週間後に、となりの県のチームとの練習試合が決まったことをぼくたちに伝え、「はりきりすぎて、けがをしないように」と、話をしめくくった。

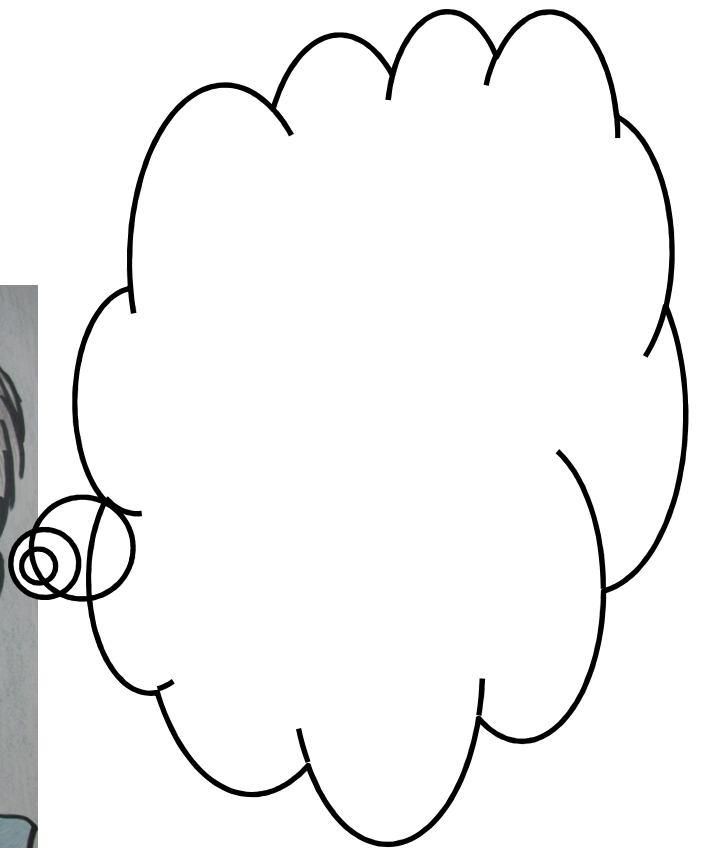
練習からの帰り、ぼくたちは練習試合の話でもりあがった。地震いらい、外での運動がせいげんされ、家族もいそがしくて、なかなか遠出することもなかったからだ。その日から、練習試合の日が来ることが、とても楽しみで、これまで以上に練習に力が入った。みんな、久しぶりの試合に勝ちたいという気持ちでいっぱいだった。

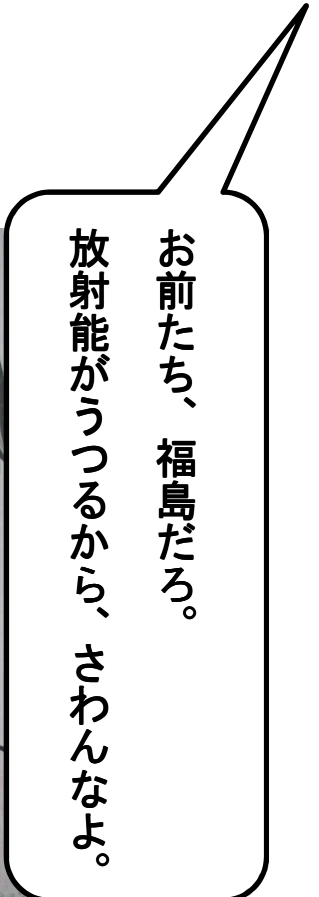
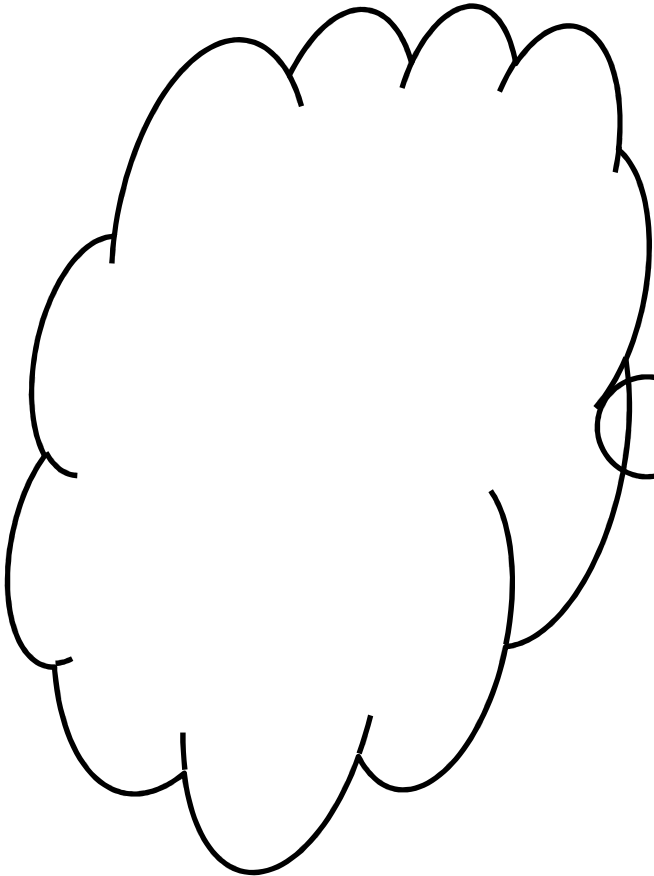
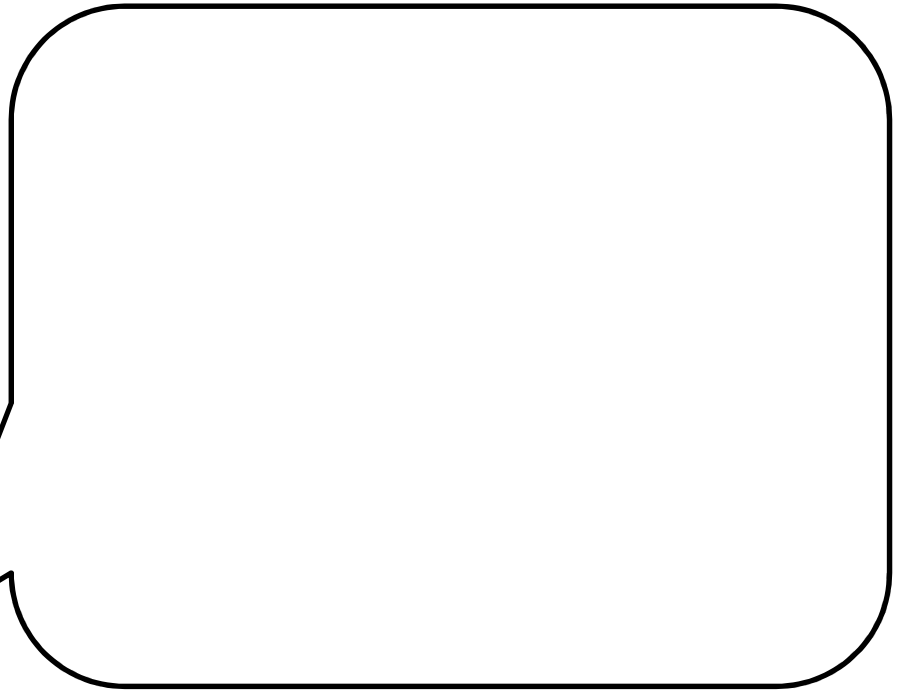
3週間後、ぼくたちはバスに乗って試合会場に向かった。グラウンドで、すでに練習を始めているチームもいて、さっそくアップとドリブル練習を始めた時だった。友達のパスが大きくそれ、相手チームの方に転がって行ってしまった。ぼくは「すみません！」と、大きな声を出しながら、ボールの方へ走って行った。転がっていったボールは、相手チームの一人にあたり、もう一度「すみませんでした。」とやってボールを拾おうとした。その時「お前たち、福島だろ。放射能がうつるからさわんなよ。」とつぶやいたのが聞こえた。

ぼくは、頭の中が真っ白になって、自分たちのベンチにもどった。それまでのうきうきした気持ちは消え、試合に勝っても気持ちは晴れないままだった。

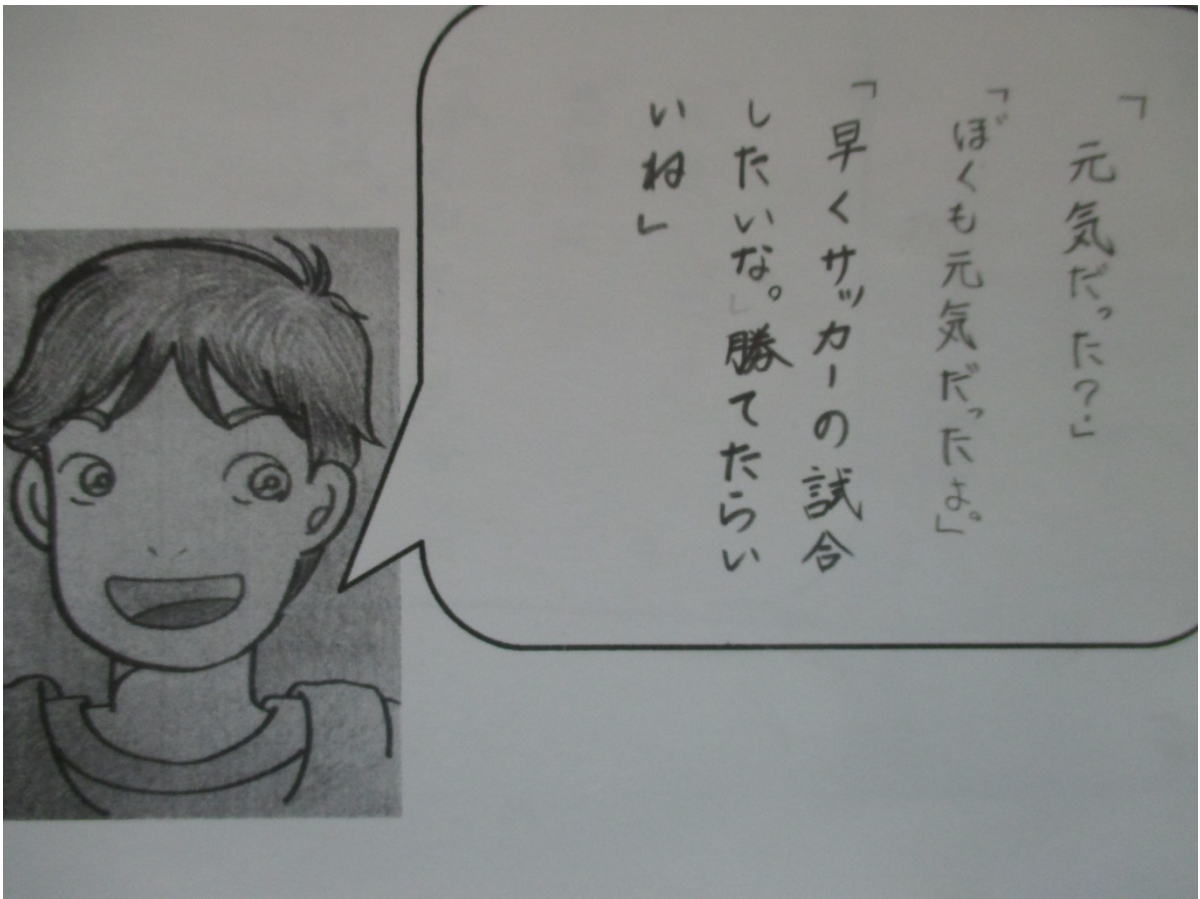
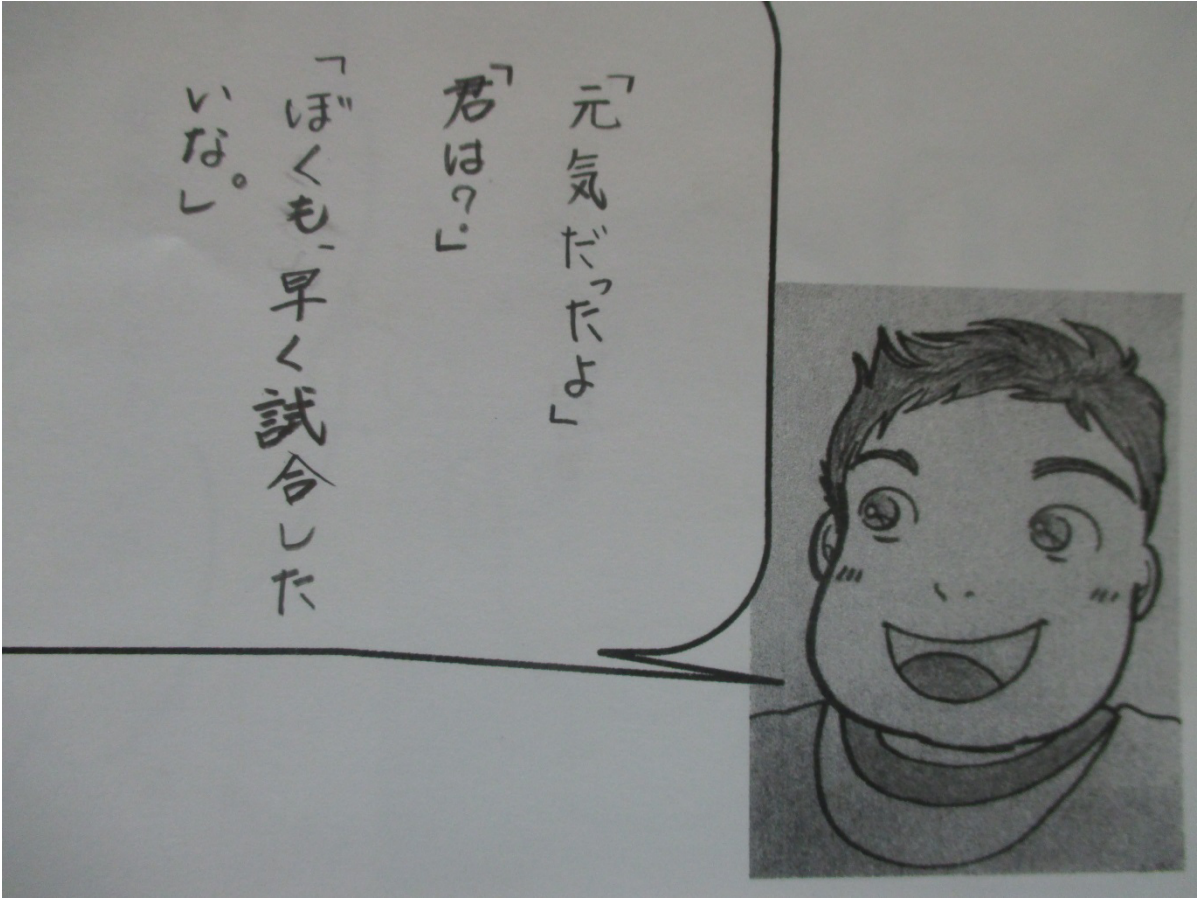


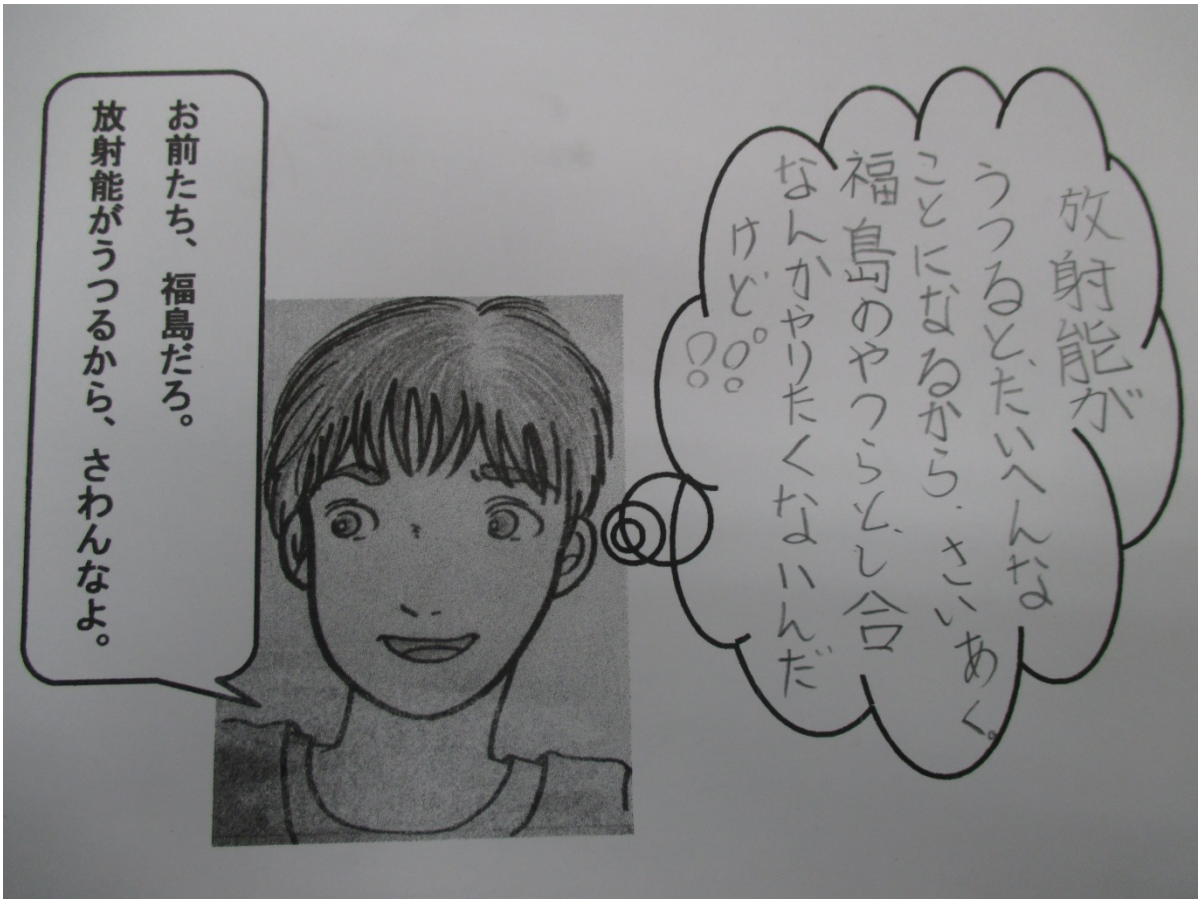
お前たち、福島だろ。
放射能がうつるから、さわんなよ。





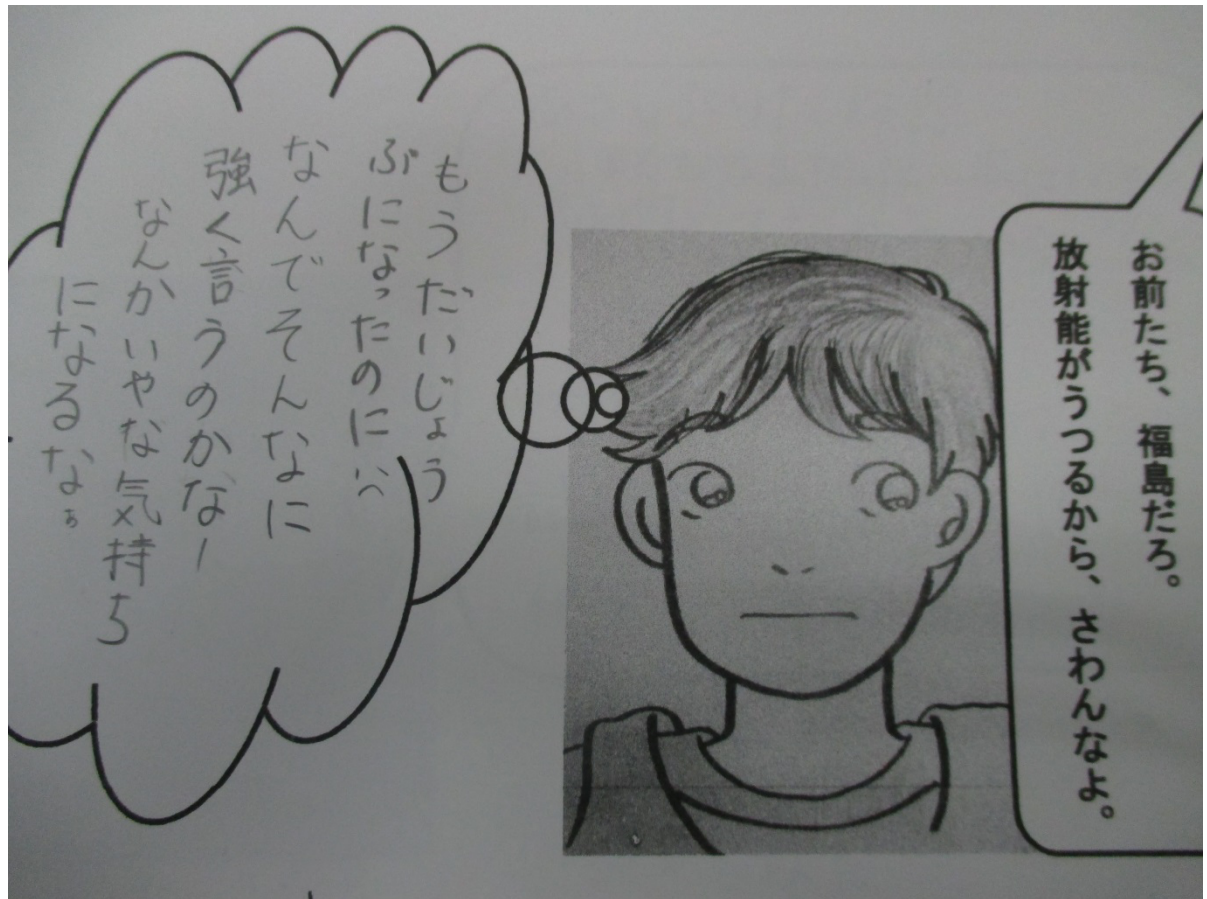
お前たち、福島だろ。
放射能がうつるから、さわんなよ。





お前たち、福島だろ。
放射能がうつるから、さわんなよ。

放射能が
うつると、たいへんな
ことになるから。さっ、あ、
福島はやつらと、し合
なんかやりたくはないんだ
けど。〇〇



お前たち、福島だろ。
放射能がうつるから、さわんなよ。

もう、たいじょう
ぶになったのにな
なんでそんな風に
強く言うのかな！
なんかイヤな気持ち
になるなよ

しょう君へ

さ、きは、しょう君、相手のチームの子にひどいこと

言われていたよね？ 多分、しょう君はとても

いやな気持ちだったと思うけど、聞いていた

他の子もいやな気持ちだったんだ。

でも、放射能は、人から人へうつらない

から、大じょうぶだよ。気にしなくても全然

大じょうぶだよ。でも今日のしあいには、かてて

よか、たね

しょう君へ

しょう君、さ、きは他のチームの子にひどいことを言われて

いやな気持ちになったね。私もしょう君みたいに「なんだか

いやな気持ちになったんだ。でもだいじょうぶだよ

他のチームの子は、福島県に住んでいないから、分から

ずかいんだよ。ほうしんのうほうつらないっておしえて

あげてね

放射線教育公開授業研究会アンケートまとめ

講演会について

- 放射線教育の震災前後の取り組みの流れについてよく分かりました。特に、“どのように子どもと向き合う”にあった。「体感型の授業」「考えさせる」「親御さんとの授業」は、参考になりました。後ろにあった「ふくろう先生の紙芝居」は、ぜひ、低学年に取り入れていきたいと思いました。
- 現在の放射線量で「注意すべきこと・注意しなくてもよいこと」・・・この線引きを、子ども達にどのように伝えていくべきか、例えば、市の方から指針を示していただけると授業に温度差が出ないのではとも思います。
- 震災後 5 年が過ぎた。県内の小・中学校における放射線教育の実施率が 100% という資料の文章に、内心ドキドキという感じであった。小冊子を利用して一斉指導になったり、マッピングをただで活用しなかったり、「とりあえず 2 時間授業を行った」だけで満足してしまう面も多く、本日の授業のように、放射線教育計画に照らしながら、教科等とも関連させることの大切さを再確認できました。特に、放射性物質と放射線についての正しい知識の指導を、怠らないようにしていきたいです。
- 正しく知る・知らせることの大切さを実感しました。

- ◇ 調べ、考えることの大切さ・・・意図的な学習と、その結果から考えさせ、行動させていくことの大切さ

体験型

- ・なぜ、放射線量が高いのか。
- ・今、どうすればいいのか。
- ◇ 子どもの後ろに家族がいる・・・。
- ◇ どの発達段階でどこまで教えるか、それをどこで教えるか。(教科の組み合わせ)
- ◇ 基礎的な知識 (自然にも放射線がある)
(見えない・空の上・宇宙の放射線量)

- 時間が経っても、お互いに理解できない状況が続いていかないように。正しい情報、正しい判断、正しい行動を、国全体・社会全体で呼びかけてほしいと感じました。福島だけ、孤立してしまわないように。

- 正しい情報・正しい判断・正しい行動を目指して、放射線教育の学習をすすめていくことが大切。小・中とのつながり（段階的指導）についての内容をもっと知りたかった。失礼だとは思いますが、福島の、今の教育現場の状況を十分に把握した上での講演であってほしかった。
- 放射線教育の歴史と現状を知り、そして、今後あるべき姿を考えることができました。福島県民にとっては当たり前のことも、遠く離れた他県民は誤解をしていたり、または無関心だったりということも知ることができました。
- 放射線教育の現在までの流れについて、よくわかった。平易な言葉で、わかり易く説明していただいた。



平成28年10月31日

放射線教育公開授業研究会アンケートまとめ

- ・難しい授業だと思いました。この内容で取り上げられた意気込みがすばらしいと思います。
- ・窓際前列の男子が、中通り地区から移動してきたとのことですが、会津に来た際に本日より同様のことがなかったか、少々心配になりました。(浜通り・中通りに対する会津地方の位置づけの微妙さ)
- ・県外であっても、海外から見れば日本人として同じであり、県外のイケメン君外国人から同じことをいわれる可能性があることへの気づき。
- ・小1～中3までの学年進行における放射線教育のステップをどう組み上げる予定が知りたいです。また、本時を4年生で取り上げた理由を教えてください。

大学教授

教室内の雰囲気、担任の先生と子ども達との関係、子ども同士の関係、とてもいいなと感じました。今日は、“道徳”という切り口で、放射線教育の一部分を参観させて頂きました。「思いやり・親切」という価値の他にも考えられるのかもしれないと思いました。ただ、4年生という実態から、このような自作資料を使っただけの授業だったと解釈しております。

学活、理科、家庭科の授業だけでなく道徳の授業、大変参考になりました。

教育事務所指導主事

道徳の授業を公開していただけてありがたいです。→言った人「放射能」がうつる、も含めて、なぜ、どういう思いがあつてと踏み込んだ点がよかったです。

言われた人が傷ついて、かわいそうであるという一面にとどまらずに、学習をしていない人にとって、そういう思いで口に出してしまうことは起こりえるということも考えることができたと思う。

福島県内においては、一定の知識や理解をしていると、今回の教材については、相手チームの子が明らかに誤った認識だと、子どもも教師も分かるが、今後の発展や関連として、自分たちが知識など持たないことについて、逆はないのかも考えさせたいと思いました。

中学校校長

担任が、とても大きな心で子どもたちをぐっと理解されている雰囲気が伝わる授業でした。「学習活動3」の発表をもう少し多く取り入れることができたなら良かったと思います。

研究授業ということもあり、「手紙」を書くところまで行いましたが、じっくりと書かれた内容の発表も聞いてみたかったです。

中学校教諭

大変楽しい、しかし、しっかり考えさせている授業でした。クラスの和やかで活発な雰囲気の中、先生の巧みな導きにより、場面場面できちんと考えようとする子どもたちの姿勢が素晴らしかったです。中学校の道徳も、1年で入学してきたときにこんなことができれば、下を向いたままシーンとして1時間が終わるといってもなくなりそうです。

ともあれ、何を考えさせたいのか、発問を選び、分かりやすく伝える、板書も目で見てパッと分かるように…という工夫、大変勉強になりました。

中学校教諭

授業の中で子どもたちから出てきた「放射線はうつらない」「検査をしているから大丈夫だ」「もっと知りたかったら大人に聞いて」…などの発言から、放射線についての確かな知識が身につけているなど感心させられました。まだまだ風評被害が感じられる現状の中で、二者の立場（知らない側・当事者側）を考えた上で、福島県民の一人として自分の思いを発信する体験が得られたことは、今後の放射線教育にもつながる実践だったと思います。

小学校教諭

年間2時間の放射線教育以外での授業を見せて頂き参考になりました。自作資料の内容が、県民であれば経験するものであるので、身近さとしてもよかったと思います。

小学校教諭

自作資料がとても良かったと思います。福島県民として（特に他県に出た時）いつ問われる（かけられる）か、わからないことだと思います。

「言われたら嫌だ」という思いをしっかりと受け止めつつ「言われる背景は何か」「言われたら、どんなことを伝えれば解決できるのか」を、子どもたち一人ひとりが考えられていたと思います。

震災当時、小さくてその時のことをよくわからない子が多くなっていくと思うので、保護者へもアンケートを活用しつつ、丁寧に放射線教育を行っていくことが大切ですし、それが未来の福島につながっていくと思います。

小学校教諭

放射線教育に関する道徳の授業と言うことで、自作資料を作られて授業をされたことすごいなと思いました。

『『思いやり』のある言動とはどういうことなのかを考えさせる。』ということで、授業の中で登場人物の気持ちを考えさせることを、何回かされていました。

心ない一言を言われたときの、主人公の気持ちに共感する事に関しては、最後に発表した女の子の『いやなことを言われて嫌な気持ちになったけど、試合に勝って良かったね。』という言葉のように、4年1組の子どもたちが、主人公を励ましてやれることを見つけようとする心が育っていることがよかったと思います。

他者理解の中で、心無い言葉を言った側の心情を書かせる場面がありました。それはよい視点ですし、少し違った点で深まるところなのかなということを感じました。それは、①言った側の心情を想像する。②自分の心を見つめる。③相手に対する心情・行動を選択する。という段階があると思うのですが、具体的に言うと、「心無い一言を言うのも分かる。放射線のことを分かっているんだからしょうがない。だから黙って許してやることにしよう。」逆に、「いや、許せない。そういうことは間違っているから分からせてやろう。」と思うのか、『最終的に自分が変わろうとするのか、相手を変えようとするのか』そんなことを子どもたちに考えさせてみたい…など、色々考えるきっかけを与えてもらえる授業でした。

試合に勝って、晴れ晴れとした気持ちで帰ってくるには、どの時点において、どのような心的態度をとればよかったのか、自分たちも相手も、晴れ晴れとした気持ちになるには、どんなシナリオがあるのかという第3の選択について考えさせてみたいと思いました。

小学校教頭

県内と県外の子どもたち、大人の放射線に対する壁というのを、道徳の授業の子どもたちの発表・様子から感じることができました。

小学校教諭

福島県人として、これから生きていく上で、とてもいい授業でした。これから先、このようなことがあるかもしれません。

子ども達には、自分自身への誇り、郷土への誇りが持てる人間になってほしいと思います。そのためには、放射線に対する正しい知識はもちろんですが、学力・徳育・体育の生きる力を育み、自分自身への自信を高めていくことが必要だと思います。今日の授業で、子ども達は色々なことを考えたと思います。

小学校校長

自作資料を使って指導され、子ども達も集中して授業に臨んでいたと思います。

小学校校長

子どもの素朴な疑問が生かされた授業だった。差別を受ける可能性がある子ども達への教育も大切だが、他県での放射線教育は、さらに重要だと思う。子どもの放射線に対する意識がよく分かる授業だった。

小学校教諭

以上の感想から、今後、放射線教育を、他教科との関連をはかりつつ実施する方向性は、必要であると考えます。そのためには、放射線についての基本的な知識を理解させられるよう、学年に応じた指導をスパイラルでおこなっていくこともかせない。

指導者は、震災を記憶していない世代が今後増えていく中で、原子力発電所の事故処理が、長期間続いていくということを認識し、今後の授業を計画していく必要がある。

また、本県の中だけでも、放射線に対する意識の差がある中で、神奈川県の問題が注目されている今こそ、他県での放射線教育が、さらに重要度を増していると考えられる。

震災後、県内各校で実践してきた放射線教育の実践内容を、外に向かって発信していくことは、福島県への理解を深める第一歩に結びついていくのではないかと。